

感謝を表す表現：「ありがとう」と「すみません」

— 大学生におけるコミュニケーション様式の一考察 —

飯 尾 牧 子

要 旨

本稿は、日本語の感謝表現の「ありがとう」や「すみません」がどのように使い分けられているかを、大学生のアンケートにより考察することを目的としている。日本語は相手との上下関係、また親疎関係などによって表現が変化する言語であるが、それが感謝表現ではどのように表れるかを調査した。日本語の「すみません」には謝罪の他に感謝の意味もあるが、大学生は目上に対して恐縮の気持ちを含む「すみません」を感謝表現として使うケースが多かった。また、親疎関係にかかわらず、感謝の「すみません」よりも「ありがとう（ございます）」という直接的な表現を用いるケースが多い事も明らかになった。さらに、「すみません、ありがとうございます」という「謝罪+感謝」の構造を用いるケースも特に女性に多く見られた。大学生が「ありがとう」を感謝表現として積極的に使う理由や若者世代（大学生）の感謝表現に伴うコミュニケーション様式について考察する。

I. はじめに

人は他者から何かしてもらった場合、その恩恵に対して何かしら感謝の行為を示すものである。これはBrown & Levinson (1987)のポライトネス理論にも提唱されている。世界中には多種多様な言語と文化が存在するが、相手や場面に配慮して表現を使いポライトネスに対応した言葉使いをすることは、どの文化・言語でも同じであるとBrown & Levinsonは論じている。表層構造は異なっても、深層構造では非常に共通点が多いという主張である。

また、ポライトネスに対応した行動はほとんどの場合、感謝の定型表現で示される。日本語では「ありがとう（ございます）」がその言葉の最も一般的な表現である。さらに、日本語では「すみません」も感謝表現として頻繁に使用される。本来「すみません」は謝罪の表現と言われているが、感謝や依頼や呼びかけなど様々な用法を持つ。感謝表現としての「すみません」は日本文化の特徴に深く根ざした言葉であると考えられるが、時代とともにその使われ方も少しずつ変化してきている。本稿では、大学生にアンケートを行い、感謝表現の「ありがとう」や「すみません」がどのように使われているのかを調査・分析し、その傾向と理由を社会言語学観点から考察していく。

II. 日本語の感謝表現

1. 「ありがとう」と「すみません」

一般的に日本語の感謝の表現は、「ありがとう」である。『精選版 日本国語大辞典』（2006）では以下

の様に説明している。

(1) ありがとう

かたじけない、うれしく思うなど、相手に対する感謝の気持ちを表す、挨拶のことば。

また、「すみません」も感謝表現として使われるが、同じ辞書では次の様に説明されている。

(2) すみません

1. 気持ちの上で満足しない。納得しない。
2. もうしわけありません。ありがとうございます。人にあやまる時、礼をいう時、依頼する時などに使う。

(2)の解説2にあるように、「すみません」には、謝罪以外に感謝や依頼などの用法がある事が述べられている。さらに、『明鏡国語辞典』(2011)では「ありがとう」の解説の中に、補足表現として「すみません」について(3)の様に説明している。

- (3) 「すみません」も感謝の表現に使われるが、これは自分は利益を得たが相手は自分のために不利益をこうむった場合に相手を気遣って謝罪するもの。「手伝っていただいて、すみません」とは言えるが、「お買い上げ頂いて、すみません」とは言えない。

「すみません」は「ありがとう」同様、感謝表現の機能を果たすが、その用法は相手の不利益があるか否かによって違うということである。

一方、日本語学習教材 *An Introduction to Modern Japanese* (Mizutani, O & Mizutani, N 1977) ではこれらの言葉を以下の様に説明している。

(4) *Arigatoo-gozaïmasu. Thank you very much (polite)*

This is the most common expression of thanks. In familiar speech *gozaïmasu* is dropped.

Sumimasen. I'm sorry. Excuse me.

Sumimasen is used to express either apology or gratitude. (以下略)

Sumimasen は、謝罪や感謝を表現すると説明されている。日本語学習者にとって、謝罪表現が感謝表現にもなりうるというのは、その文化的背景を理解しなければ体得に苦労するであろう。『マンガで学ぶ 日本語表現と日本文化—多田家が行く!!』(2009) では、マンガによって「すみません」の意味のいろいろについて説明しているが、「すみません」の用法について(5)のように4つの用法があると説明

している。

- (5) 1. 謝るとき：「ごめんなさい」や「申し訳ありません」という代わりに使う。謝罪の程度としては「申し訳ありません」より軽い感じがする。
2. お礼を言うとき：「ありがとう」や「ありがとうございます」という代わりに使う。
3. 人に呼びかける時：店員を呼ぶときや、知らない人に話しかけるときなどに使う。
4. 何かを依頼するとき：「恐れ入りますが」「お手数をおかけますが」など、人に何かを依頼するときの前置きとして使う。

また、普段何気なく感謝の「すみません」を使っている日本人の英語学習者が、英語を使用する場合、感謝すべき表現に“Thank you”と誤用してしまうケースもある。土居は著書『甘えの構造』（1971）の中で、“Thank you”というべきところを“I’m sorry”をいってしまい、相手のアメリカ人にげんな顔をされ、“What are you sorry for?”と聞き返されたという体験談を述べている。本来英語では感謝の言葉を述べるべきところで、日本語的な謝罪表現の使用は会話の混乱を招きかねない。

佐久間(1983)は日本語の感謝と詫びの表現形式とそれを支えている話し手の心理との関係を図1のように示している。

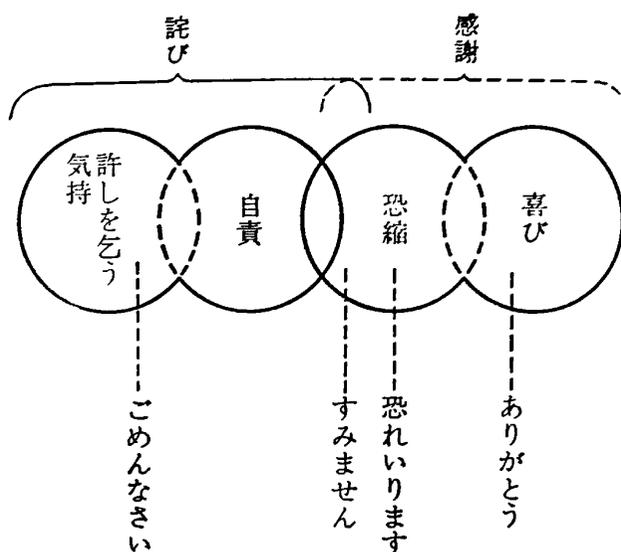


図1

(佐久間 1983)

佐久間によると、同じ感謝の表現ではあっても、「喜び」の気持ちの表明に重きが置かれる場合には、「喜び」基底に持つ「ありがとうございます」の代わりに「すみません」を使う事はできないと説明している。「すみません」が感謝を表すときは「恐縮」の気持ちを基底に持つ事が分かる。

住田(1990)は、謝辞として、「ありがとう」と「すみません」がどのように使い分けられているかを調査した。その結果、謝罪表現の「すみません」は、待遇表現上、目上に対するもので、感謝表現の「ありがとう」は対等あるいは目下に対するものであると述べている。また、「目上」の場合、「ありがとうございます」と「すみません」とでは、「公・私」の別があり、公的な人間関係として捉えた場合の謝辞は「ありがとうございます」となり、私的な人間関係の場合には「すみません」となると論じている。

さらに、岡本(1992)は、「ありがとうタイプ（感謝型）」と「すみませんタイプ（謝罪型）」の日本語の感謝表現の状況的使い分けの規定因を考察している。それによると、相手の負担が大きいと感じられる状況ほど謝罪型が多用され、感謝型が少なくなる傾向が示された。その理由に、相手が被ったコストへの配慮が謝罪型の使用に結びつく事が示唆されている。さらにこれは、親しい相手でも疎遠な相手でも事情が似通っていると論じている。

これらの研究から、感謝を表現する「ありがとう」や「すみません」の使用は、相手との上下関係や親疎関係、さらに相手に対する恐縮の度合いや負担を感じる度合いなどが複雑に関係していると思われる。

2. 仮説

日本語の感謝表現に関し、先行研究を鑑みて本稿では以下の仮説を提案する。

- a. 同等または親しい人に対しては感謝型の表現がより多く使われる。
- b. 目上または知らない人に対しては謝罪型の感謝表現がより多く使われる。
- c. 相手に負担を掛けていると感じられる場合は謝罪型の感謝表現がより多く使われる。

以上の仮説に基づき、今回のアンケート調査で若者(大学生)は実際にどのように感謝表現を使用しているのかを見ていく。

Ⅲ. 調 査

1. アンケート対象者

東洋学園大学の学生1年生から4年生のべ131人を対象に書面によるアンケート調査を2017年の1月に行った。各学年とその男女の数は、1年26名(男21,女5)、2年64名(男28,女36)、3年30名(男13,女17)、4年11名(男5,女6)である。男女の数は、男67名,女64名でほぼ同じ割合である。書面でのアンケートは、授業の最後5分程を使って学生に答えてもらった。なるべく考え込まずに自然に出てくる表現を答えるように指示した。

2. アンケート

アンケートによる会話は全部で10問である。アンケートの際学生達には、相手に何かしてもらった

時、何と言うかを調査するものであるとだけ伝え、感謝の表現という言葉は使っていない。AとBの会話で、Bを被験者の学生とし、会話によりAの役割を、Bに対して同等、目上、親しい人、知らない人に変え、AとBの会話のBの一部分を下線にし、そこでどういう言葉を使うかを記述してもらった。10問の会話はAの同じ役割が続かない様ばらばらにする配慮がしてある。尚、アンケートの(1)から(7)の会話は役割を考慮し作成したものであるが、(8)は日本語学習教材『みんなの日本語』初級Ⅱ第29課、(9)と(10)の会話は『みんなの日本語』初級Ⅰ第23、24課より抜粋したものである。

IV. 結果と分析

10の会話を、Aの役割ごとに、「同等」かつ「親しい」、「目上」、「知らない人」の3グループに分け、それぞれどういう結果になったかを見ていく。

1. 同等かつ親しい人に対する感謝表現

被験者と同等の立場に値する人物をアンケートの中では、「同じクラスの友人」と「仲のいい友だち」に設定した。以下がその会話である。

(1) A=同じクラスの友人

A：これ、トイレに置き忘れてたよ。

B：あ、ほんとだ！_____。

(2) A=仲のいい友だち

A：このお菓子食べる？

B：あ、うれしい！_____。

(1)は、友人に置き忘れていてものをわざわざ持ってきてもらったという行為、(2)は仲のいい友だちからお菓子を分けてもらうという行為に対するBの言葉であるが、両方とも以下の様に似た結果となった。

表 1

| | 表現 | 女 | 男 | 計 |
|-----|-----------------------|----|----|----|
| (1) | ありがとう/サンクス/サンキュー | 48 | 46 | 94 |
| | ごめん/申し訳ない, ありがとう | 15 | 2 | 17 |
| | ごめん/すまない/すまねえ | 1 | 3 | 4 |
| (2) | ありがとう/あざっす/サンクス/サンキュー | 50 | 40 | 90 |
| | すまん | 0 | 1 | 1 |

上の表1の右側の数字は左にあげた表現のいずれかを使った数である。数には明らかに「ありがとう」や「サンキュー」のように感謝の表現とわかるものと、「ごめん」「すまない」のように謝罪の表現と分かるもののみを入れている。例えば(1)において感謝でも謝罪でもない、「よかったー」や(2)の、「やったー」「食べる！」などは今回集計の対象とはしていない。これは以下の集計においても同様である。本調査の感謝の表現とかけ離れた事例は数には入れていない。

表から分かるように、男女ともに同等の近い人に対する感謝表現は、「ありがとう」が約9割以上を占める。「ありがとう」の他の表現としては「サンキュー」「サンクス」、男性においては「あざっす」というだけた表現がみられる（「あざっす」とは「ありがとうございます」を短くした若者言葉のひとつ）。感謝表現のバリエーションは女性よりも男性が豊富であった。

その他、「ごめん（申し訳ない）、ありがとう」といった、「謝罪+感謝」の表現が見られた。相手の行為に対してすまないという表現のみだけでなく、直接的な感謝の表現をともなった二重の構造である。この表現が女性に多く見られる（女15、男2）のは、相手に対してより丁寧でありたいという気持ちの現れであると考えられ、言葉に対する女性特有の特徴である。

謝罪表現を使った例は、「ごめん」や男子生徒の「すまねえ」「すまん」などが見られたが、数としてはとても少なかった。また、これらの表現は「すみません」「ごめんなさい」のくだけた形であり、謝罪の形を使用しているが、堅苦しさを避け、わざとくだけた印象を与えるために使用されていると考えられる。

同等または親しい人に対して何かしてもらった場合、大学生はその行為に対して申し訳ないと思う気持ちよりも、ストレートに感謝の気持ちをあらわす方を好むようである。

2. 目上の人に対する感謝表現

ここでの「目上」とは、「バイトの先輩」、「サークルの先輩」、「先生」、「目上の知人」、「年上の友人」である。まず始めに「バイトの先輩」(3)、「サークルの先輩」(4)から見ていく。

(3) A=バイトの先輩

A：村上春樹の本を読みたいって言ったから、持ってきたよ。

B：ほんとですか？ _____。

(4) A=サークルの先輩

A：ゲームの攻略本持ってきたけど、見る？

B：あ、それ見たかったんです。_____。

(3)と(4)はどちらも先輩に対する表現であったため、結果は似通ったものとなった。表2はその結果である。

表 2

| | 表現 | 女 | 男 | 計 |
|-----|-------------------|----|----|-----|
| (3) | ありがとうございます | 57 | 52 | 109 |
| | すみません, ありがとうございます | 2 | 2 | 4 |
| | ありがと/あざす | 0 | 8 | 8 |
| | 本当にすみません | 0 | 1 | 1 |
| (4) | ありがとうございます | 48 | 32 | 80 |
| | さんきゅー/ありがとう/あざーす | 1 | 10 | 11 |

どちらも目上の方が本を持ってきてくれたという行為に対する表現である。前述(1), (2)の場合とは異なり, (3), (4)は相手が年上であるため「ありがとうございます」という丁寧な感謝表現が群をぬいて多い。(3)で「すみません, ありがとうございます」という「謝罪+感謝」の表現が見られるが, 数としては2例と少ない。さらに, 謝罪の表現のみは(3)において1例の「本当にすみません」しかなく, 逆に男性は(4)のように先輩に対しても「さんきゅー」や「あざーす」のようなくだけた感謝表現を使用している。年上の方が本をわざわざ持ってきてくれたという行為に対して申し訳ない, 手間をかけたという気持ちを表現する謝罪表現よりも, 本を持ってきてくれた事に対する感謝の気持ちの方が強く表れていると考えられる。

(3)および(4)の表現のなかで, 感謝でも謝罪でもない表現であるため今回の集計には入れていないものがある。それらは「見ます」, 「見せてもらっていいですか」, 「お借りしていいですか」, 「助かります」などである。これらのバリエーションは特に男性に多くみられた。直接感謝をしめす表現でなく, 相手に確認をする表現や, してもらった行為に対する自分の気持ちを示すことで, 間接的な感謝を表しているのではないだろうか。

次は, 目上でも「先生」に対する場合であるが, 先輩のケースとは少し違った結果がでた。(5)は教室に忘れたスマホを先生がわざわざ事務へ届けてくれたという行為に対する表現をきいている。

(5) A=先生

A: 教室にスマホ忘れてたでしょう。学生課に届けておきましたよ。

B: ああ! _____。

Bの表現は以下表3のような結果になった。

表 3

| | 表現 | 女 | 男 | 計 |
|-----|------------------|----|----|----|
| (5) | ありがとうございます | 26 | 32 | 58 |
| | すみません、ありがとうございます | 31 | 17 | 48 |
| | すみません | 4 | 9 | 13 |
| | あざす | 0 | 1 | 1 |

男女の合計の数を見た場合、「ありがとうございます」という丁寧な感謝の表現が一番多かった。その次に多かった表現は「すみません、ありがとうございます」で、他の場合にも見られた、「謝罪+感謝」の二重構造である。しかし男女別に見ると、女性の方は、「すみません、ありがとうございます」が31例で一番多く、「ありがとうございます」を抜いている。女性の場合、相手が先生の場合は、何かしてもらったという行為に対して、すまない・申し訳ないという気持ちを男性よりもより強く表そうとしている。単に感謝を表すだけではすまない、という感覚が「謝罪+感謝」の構造に見られる。男性でも「謝罪+感謝」の表現は比較的多く見られる事から、女性同様に先生に対する表現はより丁寧になるものと考えられる。

また、これまで謝罪表現のみで感謝の意を示していた例はあまり見られなかったが、(5)において、「すみません」という表現は13例と多くなっている。「ありがとうございます」という言葉は伴っていないが、わざわざ先生がしてくれた行動に対して申し訳ないという恐縮の気持ちが表れていると思われる。(3)、(4)の単なる年上の先輩の場合とは異なり、地位、年齢などが目上の人に対しての表現の違いが見られる。

さらに(6)と(7)の会話は、相手が「目上の知人」、「年上の友人」の場合である。ここでは会話の言葉遣いが丁寧語であることから分かるように、あまり親しい関係ではない、またはお金を借りているという要素が入っている。

(6) A=目上の知人

B: あ、財布を忘れてしまいました。ちょっと取って来ます。

A: そうですか。じゃ、待っていますよ。

B: _____。

(7) A=お金を借りた年上の友人

A: ああ、〇〇さん。こんにちは。

B: この間は、_____。お陰で助かりました。

A: いえいえ、どういたしまして。

以下表4が(6)および(7)での結果である。

表 4

| | 表現 | 女 | 男 | 計 |
|-----|-------------------|----|----|-----|
| (6) | ありがとうございます | 4 | 7 | 11 |
| | すみません, ありがとうございます | 14 | 8 | 22 |
| | すみません | 36 | 32 | 68 |
| | 申し訳ありません/申し訳ないです | 5 | 6 | 11 |
| (7) | ありがとうございます(ました) | 52 | 48 | 100 |
| | ありがとう | 0 | 4 | 4 |
| | すみませんでした | 5 | 3 | 8 |
| | 申し訳ありませんでした | 0 | 2 | 2 |
| | ご迷惑をおかけしました | 2 | 1 | 3 |

(6)は財布を忘れたBに対して、年上の相手を持たせるという行為に対する表現であるが、圧倒的に「すみません」が多く、同じ意味合いを持つ「申し訳ありません/申し訳ないです」を含めると(6)の全体解答数の7割を超える。目上の人を持たせるという恐縮の気持ちから「すみません」が多かったのではないと思われる。その次に多かったのが「すみません, ありがとうございます」であった。待たせて申し訳ないという気持ちと待ってくれることへの感謝の手厚い気持ちが示されている。ここでも女性の方がやや多いのは、より丁寧さを強調する傾向が女性であることを裏付けている。一方、「ありがとうございます」は男性の方にやや多く見られたが数は少なかった。合計でも11例という結果は予想よりも遥かに少ないと感じられる。やはり「すみません」が多いことでわかるようにこのような状況では、待たせるという相手に負担をかける事を申し訳ないと思う気持ちが強いと考えられる。

一方、年上の友人にお金を借りた場合は、(7)の結果をみると、「ありがとうございます(ました)」が圧倒的に多かった。今回は「～ます(現在形)」と「～ました(過去形)」の区別はしていない。男性に一部インフォーマルな「ありがとう」があるがそれも含めると117例中104例が感謝の表現である。これは、(6)の結果と比べると大きな違いである。その他「すみませんでした」「申し訳ありませんでした」「ご迷惑をおかけしました」がほんの数例である。さらに(7)においては、「謝罪+感謝」の表現が全くなかった。

(6)と(7)の結果の大きな違いの理由のひとつとして、(7)の会話の下線の前に「この間は、」があり、会話として下線部のみが独立していなかったからではないかと考えられる。「この間は、」がおのずと次に来る表現を示唆してしまった可能性がある。さらに、Bの下線部の後に、「お陰で助かりました」があったことも影響していると考えられる。アンケートの会話例を作成する段階で、これらをきちんと統一する必要があった。

3. 知らない人に対する感謝表現

会話(8), (9), (10)は日本語学習教材『みんなの日本語』(2012, 2013)から抜粋したものである。

(8) (レストランで)

A：いらっしゃいませ。

B：あのう、昨日こちらに傘を忘れてしまったんですが。

A：傘ですか。

B：ええ、青い傘です。あのテーブルの横に置いたんですが。

A：ああ。ちょっと待って下さい。……これですか？

B：あ、それです。_____。

(9) (駅で)

B：すみません。ちょっと使い方を教えて下さい。

A：はい。まずここにお金を入れて下さい。次にこのボタンを押すと、カードが出ます。

B：このボタンですね。わかりました。_____。

(10) (知らない町で)

B：すみません。この近くに郵便局がありますか。

A：ええ、ありますよ。わたしも近くまで行きますから、一緒に行きましょう。

B：_____。

学習教材では会話の下線部分はそれぞれ、(8)「どうもすみません」、(9)「ありがとうございました」、(10)「すみません」と示されている。それぞれの場面は、店、駅、町中でAとBの関係は初対面または知らない者同士である。

表 5

| | 表現 | 女 | 男 | 計 |
|------|------------------|----|----|-----|
| (8) | ありがとうございます(ました) | 42 | 39 | 81 |
| | ありがとう | 1 | 1 | 2 |
| | すみません、ありがとうございます | 16 | 9 | 25 |
| | すみません/すみませんでした | 1 | 6 | 7 |
| (9) | ありがとうございます(ました) | 57 | 53 | 110 |
| | すみません、ありがとうございます | 2 | 1 | 3 |
| (10) | ありがとうございます | 35 | 31 | 66 |
| | すみません、ありがとうございます | 18 | 5 | 23 |
| | すみません | 4 | 6 | 10 |
| | 申し訳ないです | 1 | 0 | 1 |

(8)はレストランに置き忘れた傘を店の人に見つけて持ってきてもらった、という行為に対してのBの言葉であるが、アンケートでの結果では、男女ともに(8)は「ありがとうございます(ました)」が一番多く(女42, 男39)を占めている。その次に多かった解答はこれも男女ともに「すみません, ありがとうございます」である。学習教材に示されていた表現の「どうもすみません」に近い謝罪表現を使ったものは「すみません/すみませんでした」であるが男女あわせても7例しかなく、解答の中では一番少ない。大学生が使う表現方法と、学習教材の会話例には大きな傾向の違いが見られる。

(9)は駅で機械の使い方を教えてもらったことへの表現であるが、これも「ありがとうございます(ました)」が男女ともに一番多かった(女57, 男53)。相手のしてくれた行為に対して、ストレートな感謝表現を使用している。また、ここでは「すみません」のみの例は出てこなかった。学習教材ではこの会話でも、「ありがとうございました」を使っているため、(9)に関しては、大学生の使う感謝表現との相違はみられなかった。

また、(10)は知らない町で出会った人に道を聞いたら、途中まで一緒に来てくれるという行為に対する表現である。この場合も男女ともに「ありがとうございます(ました)」が一番多かった(女35, 男31)。その次に多かったのは「すみません, ありがとうございます」(女18, 男5)である。(10)の会話は学習教材では下線部分を「すみません」と表現しているが、アンケートでそう答えた学生は男女合わせて10例だけであった(「申し訳ないです」は1例)。(8)の結果同様に、(10)においても学習教材では下線部は「すみません」が使われているため、大学生のアンケート結果とは違いが見られる。

初対面または知らない人から受けた行為に対する感謝の表現は、今回のアンケートによれば、ストレートに「ありがとうございます」という表現を使用するのが最も一般的な傾向である事がわかる。日本語学習教材の謝罪表現「すみません」を感謝の表現として使用する例とは傾向の違いがあるようだ。

V. 考 察

1. 仮説の検証

ここで第2章に示した仮説をもう一度確認する。

- a. 同等または親しい人に対しては感謝型の表現がより多く使われる。
- b. 目上または知らない人に対しては謝罪型の感謝表現がより多く使われる。
- c. 相手に負担を掛けていると感じられる場合は謝罪型の感謝表現がより多く使われる。

まず、仮説aについてであるが、相手が同等または親しい場合、前章(1), (2)の通り「ありがとう」などの感謝表現が圧倒的であった。その点では仮説を裏付ける結果である。仮説cに関しては、(1)はトイレに置き忘れた物を持ってきてくれたという相手の負担があり、(2)は単に友人からお菓子をもらうという状況である。相手の負担は明らかに(1)の方がより大きく、その結果として(1)には「ごめん」「すまない」という表現が少数ではあるが(2)より多く使われている。数が少ないため断言は難しいが、仮

説cに沿った結果であった。

相手が目上の場合には少し複雑であった。目上でも親しい関係の「先輩」(3), (4), 目上である程度親しい「先生」(5), 目上であり親しくない関係(6), (7)があり, (3), (4)は相手の負担は比較的少なく, (5), (6)はある程度大きく, (7)の負担は大きい。

目上でも「先輩」の場合は, 「ありがとう」が圧倒的で, 仮説bはサポートされていない。仮説cに関してはどちらも本を持ってきてもらうという比較的相手の負担が少ないと思われる状況であったため謝罪型の感謝表現もほとんど見られなかった。相手が「先生」になると, 謝罪型の「すみません」が少し増える事から, 仮説bと仮説cに沿っていると見られる。さらに, 目上で親しくない関係になると, (6)では完璧に仮説のbとcがサポートされているが, (7)では先にも述べたように, アンケートの会話のパターンが他と異なってしまったため, 正確なデータがとれなかった。

知らない相手に対しては, どの会話も相手に負担を掛けている度合いは大きいと思われたが, 結果では感謝型が突出しており, 仮説bも仮説cもサポートされなかった。特に(8)は, 置き忘れた傘を店の人に見つけて持ってきてもらうという行為, (10)は知らない町で道を聞いた人がわざわざ一緒に途中まで案内してくれるといった負担があり, 抜粋した日本語教材本の会話ではどちらも「すみません」が使用されている。ところが大学生のアンケートでは, 相手に対する恐縮や申し訳なさを表すよりも, 非常に直接的な感謝を示した例が多かった。全く知らない人に対しての感謝表現は「すみません」と恐縮するよりも, 分かりやすい(伝わりやすい)「ありがとう」の方が好まれることがわかった。日本語学習教材で「すみません」を感謝の表現として使用する用例と大学生の感謝表現にはいささか温度差が見受けられた。

また, 「謝罪」だけよりも「謝罪+感謝」の表現が多く使用されていた事は特筆に値するため次の項で詳しく考察したい。

今回の調査から, 仮説aは証明されたと考えられるが, 仮説bと仮説cに関しては, サポートされた部分とされなかった部分があり, 明確な結果は出せなかった。アンケートの方法として, 同等, 目上, 目下, 親しい, 親しくない(知り合いでない), 負担の大小など項目を細分化して調査をするべきであったと考えられる。これらは今後への課題である。

2. 「謝罪+感謝」表現

アンケートの結果をみると, 「すみません, ありがとうございます」という「謝罪+感謝」表現が思いのほか多く使用されていた。(5)の, 相手が先生の場合の感謝表現は, 特に女性の場合「すみません, ありがとうございます」(31例)が「ありがとうございます」(26例)を上回っている。(6), (8), (9), (10)においても「謝罪+感謝」は少なからず現れており, その数はいずれも女性の方が多い。

住田(1990)は調査のなかで, 「陳謝+感謝」の連分表現としてその使われ方を論じている。「すみません」と「ありがとうございます」が連分仕立てとなっている表現は, 感謝に加えて, 相手の行為に対する「ねぎらい」の心情が感じとられるとし, 「煩わせ」に対するねぎらいであると述べている。本稿の調査で, 特に女性にこのパターンが多く現れたのも決して偶然ではなく, 住田の「ねぎらい」

の心情とともに、言語に関してより丁寧でありたいという女性の社会言語学的特徴であると考えられる。元客室乗務員であった七条(2016)は仕事上の経験から、「謝罪+感謝」表現の効果について、ただ「すみません」というより「すみません+ありがとう」という形に変えることで、お客様の気持ちが変わってくると述べている。また、人は感謝されることで「貢献できた喜び」を感じるものだと述べている。「すみません」が感謝として使われたとしても、そのあとにさらに「ありがとう」というストレートな感謝言葉がつけ加えられる事で、感謝の気持ちが倍になって伝わるのだと考えられる。

VI. 最後に

1. 若者(大学生)の感謝表現

今回は大学生という限定された年齢層にしかつた調査であったため、対象が違う場合結果は異なる可能性があるだろう。しかし今回の調査は、大学生という経験値の限られた世代の特徴が表れていた。それは、若者のカジュアル(インフォーマル)な感覚であり、飾りのないストレートな感覚である。「すみません」という謝罪型の感謝よりは「ありがとう」と伝えた方が間違いが少ないであろうと考える感覚はある意味若者ならではの傾向であるように感じる。大学生の生活環境の中では目上といっても先輩や先生やバイトの上司くらいであるため、まだ複雑な上下関係に慣れていない、それがストレートな感謝表現を用いる理由にも繋がっているように思われる。

また、様々な外的情報による欧米型コミュニケーションの影響もあるのではないだろうか。インターネットや映画やテレビなどから、日本語とは違ったコミュニケーションスタイルに触れ、それを新鮮なものとして取り入れていると考えられる。例えば日本語では恐縮すべきところを、英語で“Thank you”と表現することに何か生き生きとした感覚を持つ。それを日本語に反映しているのではないかと感じる。しかしいつでも、「ありがとう(ごぞいます)」という感謝表現が適切であるとは限らない。感謝の意味だけにかかわらず日本語の「すみません」は「人間関係の潤滑油」(直塚1980)と言われており、会話の中で重要な役割を担っている。相手を慮る「すみません」がその場を和ませる場合もあり、「ありがとう」にはない奥ゆかしさもある。状況によって両方を使い分けるバランス感覚が必要だと感じる。

2. 社会言語学的コミュニケーション

ポライトネス・ストラテジーは文化的な基準を色濃く反映する。日本語では「すみません」のようなネガティブな感謝表現が使われることもあるが、英語では感謝表現は常にポジティブな表現である。このような違いはそれぞれの持つ文化的背景が大きく影響している。日本は高コンテクスト文化(high context culture)といわれ、言葉以外による伝達に依存するいわゆる「察しの文化」と呼ばれており、欧米は低コンテクスト文化(low context culture)で「言語」によって伝える事を重視する。日本語の「すみません」はまさにこの「察する」気持ちが相手を思いやる心であり、その一言によって「場」の雰囲気を取り持つ事ができる。榎本(2012)は日本でのコミュニケーションの目的は、自分の意見や思いを伝え、理解してもらうことではなくてその「場」の雰囲気を良くする事である、とも述べてい

る。また、石黒(2013)は言語選びには「正しさ」だけでなく「ふさわしさ」という基準もあると論じている。これこそまさに社会言語学的アプローチといえる。

言語とは日々変化するものであるため、今回の調査も数年後には違う結果になるかもしれない。これからのグローバル社会において、低コンテクスト文化の人たちと接触する機会が増えることにより、高コンテクスト文化に何らかの影響や変化が起こる事も考えられる。またお互いに影響し合い両方が変化していく可能性もある。今後もそのような言葉の動向を見極めていくことが課題である。

謝辞

本研究の調査に協力してくれた学生達に感謝致します。

参考文献

- Brown, P. & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press
- Mizutani, Osamu and Mizutani, Nobuko (1977) *An Introduction to Modern Japanese*. The Japan Times
- 石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める』光文社
- 榎本博明(2012)『「すみません」の国』日経プレミアシリーズ
- 岡本真一郎(1992)「感謝表現の使い分けに関与する要因(2) -『ありがとうタイプ』と『すみませんタイプ』はどのように使い分けられるか-」愛知学院大学文学部紀要 第22号
- 佐久間勝彦(1983)「感謝とお詫び」水谷修編『講座 日本語の表現3 話し言葉の表現』筑摩書房
- 住田幾子(1990)「感謝のあいさつことば -「ありがとう」と「すみません」について-」『日本文学研究 26』梅花女学院日本文学会
- 土居健郎(1971)『甘えの構造』弘文堂
- 直塚玲子(1980)『欧米人が沈黙するとき』大修館書店
- 七條千恵美(2016)『人生を決める「ありがとう」と「すみません」の使い分け』アルファポリス
- 『マンガで学ぶ 日本語表現と日本文化 一多辺田家が行く!!』(2009) 監修：武田聡子 アルク
- 『みんなの日本語』初級Ⅰ 第2版 (2012) スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語』初級Ⅱ 第2版 (2013) スリーエーネットワーク
- 『精選版 日本国語大辞典』(2006) 小学館
- 『明鏡国語辞典』第二版 (2011) 大修館書店